

平成29年度

釧路市の研究活動

研修部長 釧路市立芦野小学校
校長 藤原 美恵子

1 はじめに

釧路市小中学校校長会は、釧路市教育推進基本計画・教育行政基本方針に基づき、校種別研修会と小学校と中学校が一体となった合同研修会（年4回）、教頭会と合同で行う釧路市学校経営研究協議会（年1回）を軸に研修活動をすすめている。

小学校27名、中学校15名の会員相互がより一層の連携を深め一枚岩の姿勢で「凛として立つ校長の教育理念と指導性」を目指し教育活動の推進に努めている。



<基本方針>

- 1 釧路市小中学校校長会の基本方針を踏まえ、教育改革の推進と教育課題を勘案しながら、校長として職能向上を図るため、組織的研究に努める。
- 2 道小・道中などの基本課題に基づき、21世紀を担う日本人の育成を目指して、学校経営の活性化と経営の充実に反映する研究を推進する。

2 研究計画

基本主題の設定に当たっては、①全連小・全日中・道小・道中との関連をもたせつつ釧路市の独自性を大切にすること、②「経営研究」という視点を明確にすること、③研究分野を「学校経営」「教育課程」「道徳教育・生徒指導・進路指導・健康安全指導」「現職教育」の4分野構成とすることの3点を基本に据えている。

(1) 研修事業

主な研修事業として、①研修部年間計画の作成 ②第61回「釧路市学校経営研究協議会」の開催 ③校種別研修会の実施 ④小中合同研修会の実施 ⑤道小・道中・全連小・全日中大会開催についての情報提供及び参加企画渉外 ⑥研修に関する調査研究と資料提供 ⑦研修担当者の研修会の実施・研修委員会の計画と実施 ⑧釧路市で開催される全国・全道規模の研究会への協力等を推進している。

(2) 基本主題

「新しい時代や社会の要請に適確かつ先導的に対応できる学校経営の実現」
～道東の拠点、釧路市の特性を生かした学校教育の創造～

(3) 研究の視点

- ① 新しい学校づくりを目指す学校・家庭・地域の連携と校長の指導性
- ② 生きる力を育み創意ある教育課程の編成・実施と校長の指導性

(4) 研究主題

①学校経営分野

「時代に対応し信頼と連携を基盤とした創意と活力に満ちた開かれた学校経営の実現」

②教育課程分野

「豊かな心や知恵をはぐくむ方略と評価が適切に位置付けられた教育課程の編成・実施・評価・改善」

③道徳教育・生徒指導・進路指導・健康安全教育分野

「命を大切にし、自立心や他を思いやる心をはぐくみ、目的をもって生きることの必要性を実感する道徳教育・生徒指導・進路指導・健康安全教育の実践」

④現職教育分野

「時代の要請に応え、専門性を高め指導力向上を図る現職教育の充実」

3 研究活動

(1) 第61回釧路市学校経営研究協議会

- ◇開催日 平成30年1月10日(水)
- ◇場所 釧路教育研究センター
- ◇主催 釧路市小中学校校長会・同教頭会
- ◇参加者 総勢100名(助言:釧路教育局・釧路市教育委員会 参加:小中校長・教頭)
- ◇提言 5分科会 各2名 計10名による研究提言
- ◇講演 講師 北海道教育庁釧路教育局 局長 鈴木 淳 氏
演題 「これからの学校教育の進むべきベクトル」～釧路市の学校に期待すること～

(2) 校種別研修会の開催

新しい時代を展望する創意ある学校経営や今日的な教育課題に主体的に対応する学校経営並びに当面する学校経営上の課題等を協議することにより校長としての指導力を磨くことに資する。(小学校年6回、中学校年5回の実施)

この他、小学校は7月に教育関係者との「情報交流研修会」、中学校は11月に退職者講話を中心とした研修を実施している。

(3) 小中合同研修会の開催(年4回 小中校長会時に実施)

- ◇第1回(7月) 講話 講師 釧路教育局 教育支援課長 熊谷 誠 氏
演題 「新学習指導要領『総則』について」
- ◇第2回(8月) 経営部からの話題提供
- ◇第3回(12月) 研修部からの話題提供
- ◇第4回(2月) 特別委員会からの話題提供

(4) 各種研究大会への参加及び報告

- ◇道小稚内大会 (13名)
- ◇全連小佐賀大会 (3名)
- ◇道中千歳大会 (6名)
- ◇全日中東京大会 (3名)

4 おわりに

今年度は、来年度からの学習指導要領改訂にともなう移項措置に向けて『総則』についての理解を深めるための研修を行い、各学校において指導助言及び適切な準備ができるように、方向性を統一した。今後も完全実施に向けて課題を共有し、更なる研修の推進を図りたい。

来年度、全連小において「学校安全」について提言の機会をいただいたことを機会に、地域の立地条件や地域での役割等の特性を踏まえ防災教育について、小中連携し研修を深めている。

今後も、校長相互が強い連帯感を持ち、関係機関との連携を密にし、校長自ら資質向上に務め、経営改善の意識を高める研修活動に努めたい。